建設中の八ツ場ダム（その1）

ドボクの面白さを、古いもの、新しいもの、消えゆくもの、
身近なものなどを通じて広くお伝えします。ウェブサイトとの連動企画です！

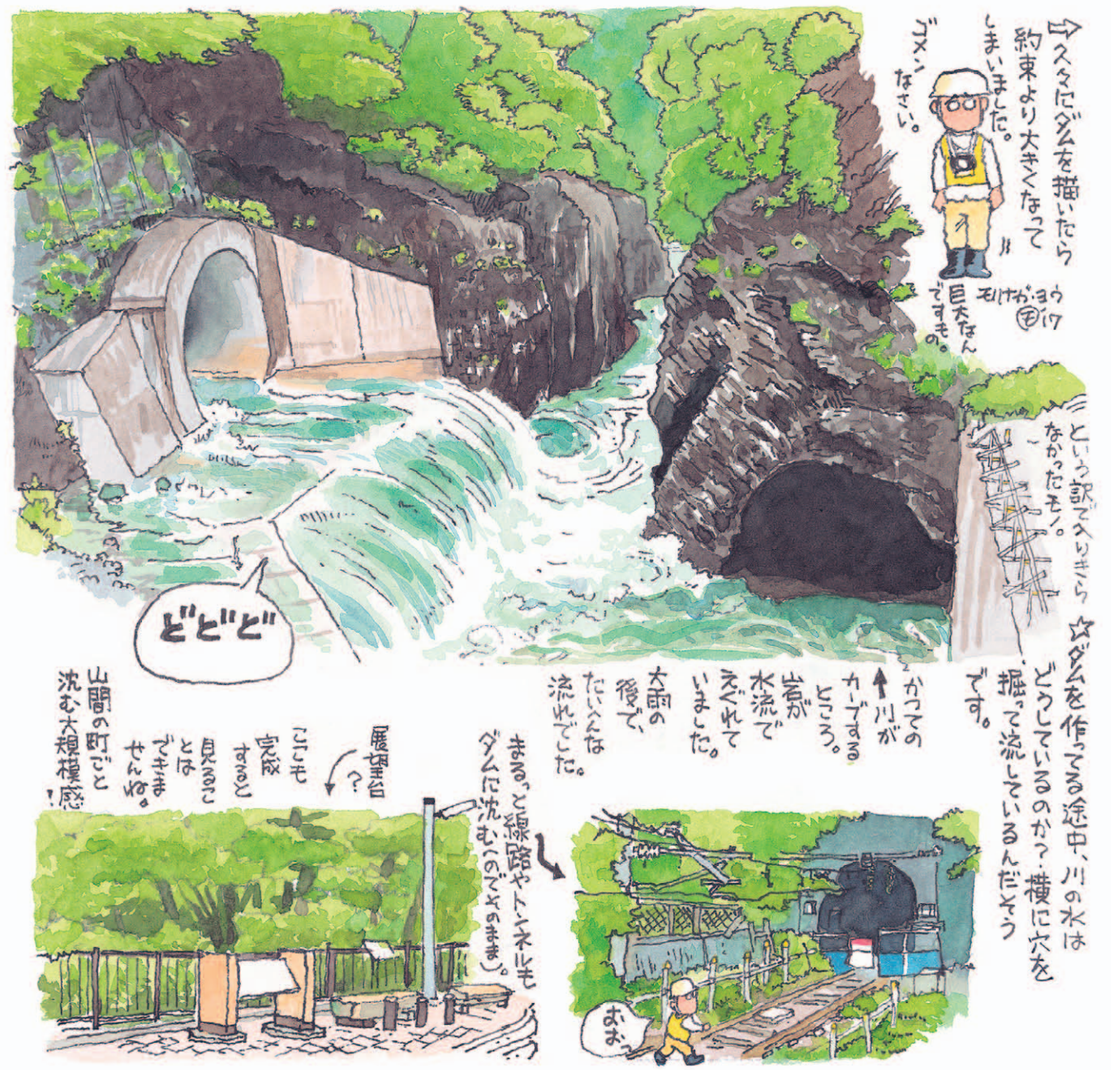
［絵］モリナガ・ヨウ／［文］溝渕 利明

モリナガ・ヨウ　1966年生まれ。現場見学だけは経験値の高い文系イラストレーター。『築地市場 絵でみる魚市場の一日』で第63回産経児童出版文化賞受賞。
みぞぶち・としあき　法政大学デザイン工学部教授、専門はコンクリート材料、維持管理（非破壊検査）等、モットーは“コンクリートの一生を考える”

取材「こぼれ」話

2018年1月号からの新連載「モリナガ・ヨウの土木まくのうち」WEB版は、誌面で掲載しきれなかった取材時のこぼれネタを中心に紹介していくコーナーです。印刷版学会誌とWEB版とを併せて読めば、学会誌記事の理解がより深まるという趣向になっています。

第1回目は、日本で約3千基あるダムの中で、黒部ダムと今では知名度において1位、2位を争うほど有名となった八ツ場ダム堤体建設の工事現場に行ってきました。

ダムを建設するためには、川が流れていてはできません。ではどうするのか？いくつかあるのですが、八ツ場ダムでは多くのダムが行っているようにダムの上流に締切を設けて、堤体を迂回するようにトンネルを掘って転流させる方法をとりました。当日は雨が降った後だったので、下流からの排水量は結構なものでした。また、ダム完成後は上流側が湖底に沈んでしまいます。よく渇水でダムの水位が下がって、湖底に沈んだいろいろなものが姿を現すというのをニュースで見た方もいると思います。八ツ場ダムでは、これまで走っていた吾妻線の一部が湖底に沈んでしまいます。線路や信号などはそのまま残されており、その区間を歩きましたが、ちょっとしたスタンドバイミー気分でした。

（溝渕利明　法政大学）